

「志と祈り」



宇都宮キリスト集会 牧師
クリスチャントゥデイ 編集長
名護チャペル 協力宣教師

宮村武夫

1986年4月、沖縄移住直後から参加した首里朝
禱会。この2月沖縄訪問の際にも、2月3日（火）、
教団首里教会での定例朝禱会に参加、ピリピ2章
13節、「神は、みこころのままに、あなたがたのう
ちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる
のです。」から、「志と祈り」の主題で宣教の機会
を与えられました。

ピリピ2章13節はパウロ自身の経験に深く根差
し、パウロにとり「喜び、冠」(ピリピ4章1節) そ
のものであるピリピの教会の姉妹に伝える、祈り
とは何か、祈りの定義です。さらに今日、沖縄で
そして各地でピリピ人への手紙を読む私たちに、
このように祈れと励ましています。

まず「神は」です。「初めに、神」(創世記1章1節)、
祈りの基盤は、このお方です。そうです。天地を
創造し、保持なさり、私たちを母の胎に奇跡的存
在として奇しく組み立てたお方(詩篇139篇13、
14節)が、祈る私たちの一番奥に働き、全人格的

に導き、「志を立て」させてくださるのです。

しかも志を立てるだけではない。食べたり、飲
んだり日常生活の細事を含め、志に基づき、「事
を行わせてくださるのです」。

確かに志を立てるのは祈る人間・私です。しか
し胎内に私たちが形造られる前から私たちを知
るお方が、私たちの祈りを通して志を立てさせて
下さるのです。常に恵みの先手を忍耐の限りを
尽くして私たちの生活と生涯に注ぎ続けるお方
の御業です。

見えるところ、あれもこれも人間の働きです。
ですから働きをなし得た者は、高慢の風に吹き
飛ばされたり、逆に働きに躓いた者は、自己卑下
や投げやり、さらには絶望の泥沼に自らを投げ込
むことすら少なくありません。

そうではないのです。断じてそうではない。パ
ウロやピリピ教会の面々のように祈り、祈り続け
ていればよいのです。ピリピ2章13節は、私たち
のただ中で実現します。

TPCの活動目的

- (1) 閉塞感のある日本のキリスト教会に元気を与える
- (2) 超教派として活動する
- (3) 毎日、礼拝を捧げ、祈り会を行う
- (4) 伝道、学びなどのために貸室を提供する